

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	・児童の実態や学びの内容に即した授業形態の取り組みの導入により、本校独自の特色ある指導方法の確立を進める。	中間評価	・授業改善推進拠点校として研究を深めることにより、「戸山スタンダード」を作成し、本校独自の特色ある指導方法の確立を進めている。	最終評価	・校内研究において「戸山スタンダード」の取り組みにおける課題を中心に研究を深めた。来年度は授業改善推進拠点校としての最終年として、全都に発信できるまとめを行っていく。
		・個別最適化した学びを展開し、児童の「学びたい」という思いを叶えられる指導を行う。また、教室のユニバーサルデザイン化を継続し、インクルーシブ教育に対応した環境づくりを進める。		・定期的に環境整備を行い、教室のユニバーサルデザイン化を継続し、インクルーシブ教育に対応した環境づくりを進めている。		・年間を通して、定期的に環境整備を行い、教室のユニバーサルデザイン化を継続し、インクルーシブ教育に対応した環境づくりをすることがおおむねできた。今後も、ICTの活用も含め、さらなる充実を図っていく。

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課題（10月）	改善のための取組（10月）	最終評価（2月）
1	国語	<p>学習した文字や言葉をすすんで使用したり、促音や拗音、「は・へ・を」の使い方を意識したりしている。</p> <p>文を視写することは概ねできるが、感想等を文で表すことに課題のある児童が多い。</p> <p>どの児童も文字を習うことを好み、すすんで学習している。しかし、ひらがな・カタカナの書き順や形を正しく覚えられない児童もいる。</p>	<p>ひらがなの形や発音は定着しているが、促音や拗音、「は・へ・を」の正しい使い方の定着に課題がある。</p> <p>文を書くことに課題のある児童は、書く内容が定まらなかったり、文字の書き取り自体に時間が掛かったり（ひらがなが定着していないため）する。</p> <p>筆順が正しいものと異なることで、バランスの悪い文字になる。また、形を覚えても文字の配置を意識していないことで、バランスが悪くなってしまう。</p>	<p>朝学習や宿題等での繰り返し学習や、授業内での確認を丁寧に行う。また、児童自身が間違いをさがすことができるよう、言葉や文を読み返す際の視点を指導する。</p> <p>内容が定まらない児童には、定型文を示すなど、文を書く形に慣れさせる。慣れてきたら、自分の言葉に置き換えて文を書かせるなど、スモールステップで取り組ませる。</p> <p>定期的な書き取りの学習を繰り返す。また、文字を書く時には、マスの4分割の部屋を意識させることで、文字の形を整えさせる。</p>	<p>促音や拗音、「は・へ・を」の使い方について、プリントや日記などの繰り返し学習によって、定着している児童が増加している。言葉を書くことに慣れてきた一方で、煩雑になってしまったり、文字が抜けたりしまったりすることも見受けられる。丁寧に取り組むことや、言葉の抜けやミスなどを自身で見つけられるよう、見直しの習慣を継続して指導していく必要がある。</p> <p>定型文や例文の提示、全体で意見を交流してから文章を書く流れの指導等により、自分で考えて文章を書くことができる児童が増えている。より豊かな語彙の獲得により文章を書く力が高まるよう、継続して指導していく。</p> <p>進出漢字の学習の時間や、授業の一部の時間、デジタルドリルを利用して、字形や筆順を意識して書くよう指導を行った。ひらがな、カタカナの違いを意識しながら書いている児童が多く見られる。整った文字を書くことよさを実感しながら学習を進められるよう引き続き指導を積み重ねていく必要がある。</p>
	算数	<p>計算（10までの足し引き）は多くの児童が習得している。</p> <p>文章の問題の読み取り、考えたことの説明に難しさを感じている児童がいる。</p>	<p>計算の仕方は定着しているが、時間がかかる児童もいる。</p> <p>文章で書かれている内容をきちんと捉えられていない。また、その授業時間は出来ても、時間が空いてしまうと出来なくなってしまう。</p> <p>思考力、表現力に課題がある。</p>	<p>プリントや計算カード、東京ベーシック・ドリルで繰り返し練習しながら、素早く正確に解くことができるように指導する。</p> <p>文章で書かれている内容を絵で示したり、ブロックで示したりし、視覚的に支援をすることで文章の理解が進むようにする。また、定型の問題を繰り返したり、既習内容を授業の始めに確認したりすることで、理解につなげていく。</p>	<p>プリントやデジタルドリルを活用した繰り返しの取組により、基本的な問題を早く正確に解くことができるようになった児童が増えた。また、より早く正確なものを目指して、意欲的に学習に取り組む児童も多く見られた。</p> <p>文章問題の必要な情報にラインを引いたり、内容をブロックや図に表すことで具体的にとらたり、説明したりする活動を通して、正確に立式することができるようになった児童が多い。聞かれていることに対する適切な答え方については継続して指導していく必要がある。</p>
学年	教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月） → 最終評価（2月）

2	国語	<p>学文章を書くときに「は」「を」「へ」を正しく活用することが課題となる児童が見られる。また、「、」「。」が抜けてしまう児童が多い。</p> <p>学漢字やカタカナの読み書きや書き順をきちんと覚えていない状況が見られる。</p> <p>学授業では、積極的に発言する児童がいる一方、集中して話を聞くことが難しい児童も見受けられる。</p> <p>学ワークテストでは、問題文を読み切らず、間違った解答をする児童が見受けられる。</p> <p>学タブレット端末を活用した学習では、自宅でも積極的に取り組む児童が多い。</p> <p>学大きな声で音読することが苦手な児童が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書く際に「は」「を」「へ」および句読点の使い方を理解させる。 1年生の漢字やカタカナをきちんと書いたり、書き順を正しく書いたりできるようにする必要がある。 人が話をしているときは目を見て話を聞くよう指導を続ける。 文に線を引いて、答えとつなげて答えられるようにする。 下を向かず、はっきりと大きな声で音読をしていく態度を身に付けさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「は」「を」「へ」を正しく活用することを定着させていくために、見本となる文章を繰り返し視写していく学習活動を取り入れる。また、「日記」などで、正しい活用方法を指導していく。 授業の中で定期的に小テストを行い、復習に力を入れる。家庭学習で保護者にも協力していただき、漢字やカタカナの読み書きの習得を確実にする。また、ICT機器やデジタルドリルを活用し、書き順や活用法などを示し理解を促す。 家庭と協力し、音読指導を行う。また、学級発表などを通して音読の成果を確かめられる場を用意し、上達するための意識をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> 日記や作文指導を通して、文章の書き方を理解できた児童がいる。しかし、文章を組み立てることが難しく「は」「を」「へ」が抜けてしまう児童が多いため、今後も継続して日記や作文などで指導が必要である。また、既習漢字やカタカナを活用できるよう指導していく。 学習への取り組み方が浸透してきており、概ね改善できた。しかし、指示を受けて活動することが難しい場面もあるため、個別最適化した対応を継続して行う。 テストでの、答え間違いなどがまだあり、文章を読み切つて設問に答えるよう継続して声掛けが必要である。 週一回程度のタブレット端末での宿題などで、苦手な個所を反復して学習することができるようになった。また、意欲的に取り組む児童が増えた。 音読劇などの、声を出して読む活動を通してまわりに聞いてもらうための声の大きさを知ることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 週末課題の日記や作文の指導を繰り返し指導することによって、「は」「を」「へ」や小文字の「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」を適切に使える児童が増えてきた。しかし、句読点が抜けてしまったり、外国籍の児童を中心に小文字や濁音の記載が正しく書けない児童もいたりするので、3年生になっても、日記や作文などで継続的な指導が必要である。 意識して丁寧な字を書く児童が増えてきているが、集中力が切れたり、宿題のノートで雑な字になってしまったりすることがある。書き直しをさせたり、個別で指導したりするなど、中学年でも引き続き指導が必要である。 ドリルパークでの漢字学習では、同じ課題を繰り返し出すことによって、苦手な漢字の習得がしやすくなった。しかし、課題への取り組みに個人差が出やすいため、家庭への声掛けを含めて、児童が課題に取り組めるようにしていく。 授業の中で音読を友達に聞かせる場面では、聞き手を意識した声の大きさや間の取り方をできるようになってきた。しかし、児童の中には抑揚をつけられずに読んでしまったり、決め読みをして間違っただま読んでしまったりする児童もおり、今後も継続的に正しい読み方を指導していく。 新宿区学力定着度調査では、知識・技能の観点では大きな差はないが、思考・判断・表現の観点での差が大きかった。パターン判定（4層分析）を行うと、個別指導の必要がある判定が多くあるため、文章を読むこと・書くことを中心に個に応じた指導を行っていく。
	算数	<p>学たし算の繰り上りの筆算に時間がかかる児童が多い。</p> <p>学板書を写すことが難しく、ノートの書き方の理解ができていない児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 筆算の方法や書き方を理解、浸透させる必要がある。 ノートの書き方を共通理解させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で、適宜振り返りを行い、筆算の習熟に努める。 ICT機器を活用し、児童と同じノートで板書指導するなど、理解しやすい指導を心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 練習問題に取り組む際、聞かれていることに下線を引いたり、キーワードに印をつけたりするように指導したことで、何を求めればよいかを意識して答えを導けるようになってきた。今後も継続していく。 ICT機器を活用することによって、児童の意欲やノートの書き方への理解が高まった。板書を写すことが苦手な児童には、教科書に直接書き込ませたり、簡素な板書にしたことで、学習に取り組む意欲を高めるきっかけになった。今後も継続して指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習プリントを使い、適宜復習させることで学力の定着を図ってきたことで、量感やめもりを読む力も身に付いてきた。また、テストの平均点も1割程度の向上が見られた。 正しい筆算や式の書き方は定着してきたが、図や表をノートに分かりやすく書くことが難しい実態がある。引き続きICTなどを利用してノート指導を続ける必要がある。また、オクリンクなどで問題を発信したり、ノートの書き方の例示したりすることで、書き取りが苦手な児童にも意欲的に学習に取り組めるようアプローチしており、そちらも継続的に指導していく。 新宿区学力定着度調査では、知識・技能の観点では大きな差はないが、思考・判断・表現の観点での差が大きい。パターン判定（4層分析）を行うと、応用・記述の問題について二極化の傾向がみられた。国語同様に文章についての理解や考えを表現する力が身に付くよう指導していく。

	<p>国語</p>	<p>調領域「話す・聞く」「書くこと」「読むこと」のいずれも区の平均を下回る結果となった。中でも「書くこと」においては、大きく下回る結果となった。</p> <p>学 漢字の定着に個人差が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 作文、読書感想文等を書き慣れさせ、正しい書き方が身に付くように指導する必要がある。 新出漢字について繰り返し練習や見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文の書き方指導をし、構成力を身に付けさせるとともに、書く取り組みを多く取り入れる。また、読書のさらなる推進をしながら、語彙を増やしていく。 フラッシュカードやタブレット端末、デジタルドリルを用いて、繰り返し習熟させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書や辞書引き学習で、語彙を増やす活動を行ったり、繰り返し文章の構成を考えて作文に取り組んだりすることで、書く力が高まってきた。今後も継続して指導していく。 タブレット端末を活用して、漢字の筆順や使い方を示すことにより、少しずつ定着してきた。今後も継続して指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」の学習だけでなく、様々な学習場面で文章を書くことに取り組んできたことで、文章を書く力を高めることができた。また、読書の習慣や辞書引き学習によって語彙が増え、文章中に扱う言葉の表現を増やすことができた。 タブレット端末を活用して、漢字の定着に一定の成果が見られた。今後も、適宜活用して指導していく。 新宿区学力定着度調査では、知識・技能の観点では大きな差はないが、思考・判断・表現の観点での差が大きい。パターン判定（4層分析）を行うと、集団指導の必要がある判定が多くある。話すこと・聞くこと、文章を読むこと・書くことを中心とした指導を行っていく。
3	<p>算数</p>	<p>調新宿区学力定着度調査では、「数と計算」「測定」のどちらも、区の平均をわずかに下回っている。</p> <p>学 文章題を正しく読み取ることが難しい児童が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 具体物や半具体物を用いて、既習事項も含めて学習内容を十分に理解できるよう指導する必要がある。 計算問題等への習熟をさらに図っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算問題に繰り返し取り組ませて習熟を図る。「測定」においては、既習事項の振り返りを行いながら具体物や半具体物を用いたり、ICT 機器を活用した学習を行ったりして、興味関心を高めるとともに、理解の定着を図る。 家庭学習やデジタルドリルを活用した練習問題を適宜取り組ませ、家庭と連携しながらさらなる学習の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題に繰り返し取り組ませることで、計算力が身に付いてきているため、今後も継続していく。「測定」については、引き続き具体物を用いた体験的な活動や、タブレット端末を活用することで、確実に理解できるようにしていく。 家庭学習やデジタルドリルを活用した練習問題に取り組ませたことで、学習の定着を概ね図ることができた。今後も継続して指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の導入で前時の振り返りを行ったり、習熟度別指導の特性を活かして、児童の実態に合わせた問題に取り組ませたりしたことで、学習内容を定着させることができた。 家庭学習やデジタルドリルを活用した練習問題に取り組ませたことで、学習内容の定着を図ることができた。 新宿区学力定着度調査の応用の問題では、知識・技能の観点では区平均と比べて大きな差はないが、思考・判断・表現の観点での差が大きい。パターン判定（4層分析）を行うと、図形や測定の領域、式による表現の問題について二極化の傾向がみられた。国語同様に文章についての理解や考えを表現する力が身に付くよう指導していく。

4	国語	<p>【調】領域「話すこと・聞くこと」の正答率が目標値を大きく下回っている。さらに、カテゴリー間の比較においても「言葉の特徴や使い方に関する事項」で区や全国のスコアを大きく下回っている。</p> <p>【学】漢字の定着に個人差が見られる。</p>	<p>・コロナ禍により、ここ2年ほど日常生活における、会話の機会の減少により、話を聞き取れなかったり、自分が話したいことを相手に分かるように伝えられなかったりする児童もいる。</p> <p>・既習漢字の習得ができていない児童がいる。</p>	<p>・グループ等で話し合う活動を多く取り入れる。</p> <p>・漢字学習に力を入れ、毎日練習させることで、どの子にも文字を正しく書く力をみにつけさせる。特に「とめ」「はね」「はらい」に気をつけさせる。</p>	<p>・自分の考えは、理由も合わせて分かりやすく伝えられるようになってきている。しかし、相手の意見や考えを自分の意見と合わせて考え直したり、意見が対立しないようにうまく話を進めたりするところはまだ課題がある。単元「みんなで決めるには」の学習を活かして、指導していく。</p> <p>・漢字の間違いやすい点について、朝学習の時間や授業で漢字について指導していく。また、家庭学習でも漢字の学習を取り入れたり、音読を取り入れたりして、新出漢字の読み書きの定着を図る。</p>	<p>・体育などほかの授業においても、話し合いながら作戦を立てたり、上手に役割分担したりすることができるようになってきた。全体の場で発言することにためらいを感じる様子が見られるようになってきたので、今まで以上にグループでの話し合いを増やし、その話し合いの様子から、個人の考えを見取るようにしている。</p> <p>・漢字の学習の仕方を度々指導している。また、家庭学習の仕方を工夫したり、ゲームを取り入れたりして定着を図っている。</p> <p>・新宿区学力定着度調査では、知識・技能の観点では大きな差はないが、思考・判断・表現の観点での差が大きい。パターン判定（4層分析）を行うと、書くことや文章読解で、児童間の差が大きい。</p>
	算数	<p>【調】全体的に目標値を大きく上回っているものの、図形の分野で目標値を下回っている。</p> <p>【学】既習内容が習得できていない児童がいる。</p>	<p>・作図は、丁寧にすることができる。正しく作図できるように集中して確実に目盛りを読み取らせることが必要である。</p>	<p>・ICT機器を活用して、教師の手元をプロジェクターで投影しながら指導し、道具の正しい使い方を指導する。</p> <p>・習熟度別指導を活用して、適宜、計算の復習を取り入れるなど、児童の実態に合わせた指導を行う。</p>	<p>・授業中、作図は正確で丁寧に描くことができている。しかし、長さを測り間違えるなどのケアレスミスが多い。一つ一つ最後まで丁寧にすることができるよう指導していく。また、適宜ICT機器や具体物を活用しながら指導し、学習内容の定着を図る。</p> <p>・反復練習したり、個別に指導したりして定着を図っている。</p>	<p>・反復練習を繰り返して定着を図るようにした。数のしくみについて指導が必要と感じるため、今後もICT機器や具体物を活用して思考力を高められるようにする。また、児童の様子を見ながら、適宜既習内容を行えるようにする。</p> <p>・新宿区学力定着度調査では、知識・技能の観点では大きな差はないが、思考・判断・表現の観点での差が大きい。パターン判定（4層分析）を行うと、個別指導の必要がある判定が多くあるため、個に応じた指導を進めていく。</p>
5	国語	<p>【調】領域「書くこと」の正答率が目標値を大きく下回っている。さらに、問題の内容別正答率でも「文章を書く」の分野で目標値を大きく下回っている。</p> <p>【学】作文用紙の使い方を理解できておらず、正しく段落分けたり、正しく「、」「。」を書いたりすることができない児童が多い。</p> <p>【学】自分の考えを文章にして表現することができない児童が多い。</p>	<p>・「書くこと」に対して、何をどのように書いたらよいか理解できるように指導する必要がある。</p> <p>・作文用紙の使い方を初めから指導する必要がある。</p> <p>・短文を書けるように練習し、そこから内容を膨らませる指導をする必要がある。</p>	<p>・教科の学習において、「書くこと」を意識した指導をしていく。初めは決まった文章の形を提示し、徐々に自由な文型で文章を書けるようにしていく。</p> <p>・毎週末の日記の課題で、文章の書き方の指導をしていく。</p> <p>・教科の学習において、個人に学習評価をさせることで、自分の学習を振り返らせるとともに、自分の学習の状況を言葉に表す習慣をつけさせる。</p>	<p>・「書くこと」の学習の際は、定型文を提示したことで、主体的に学習に取り組むことができるようになってきた。今後も継続して指導していく。</p> <p>・既習漢字を使用することが難しい児童がいるため、文章の書き方の指導に加え、デジタルドリルを活用して漢字の指導を行う。</p> <p>・授業の最後に学習評価をすることで、自分の学習状況を把握することができるようになった。今後も継続して指導し、学習の積み重ねができるようにする。</p>	<p>・「書くこと」の学習の際は、定型文を提示したことで、主体的に学習に取り組むことができるようになった。一方、定型文がない場合だと何も書くことができない児童もいるため、短文を書く指導や自分の考えを言葉に表す指導をする必要がある。</p> <p>・既習漢字を使用することが難しい児童は、タブレット端末を使用した漢字学習を繰り返すことにより、徐々に漢字を使って文章を書くことができるようになった。</p> <p>・授業の最後に学習評価をすることで、自分の学習状況を把握することができるようになった。今後も継続して指導し、学習の積み重ねができるようにする。</p> <p>・新宿区学力定着度調査では、書くこと・読むことの観点での差が大きい。パターン判定（4層分析）を行うと、個別指導の必要がある判定が多くある。「漢字の書き」の点数が特に低く、個に応じた指導が必要である。</p>

	算数	<p>調問題の内容別正答率では「億と兆・がい数の表し方」の分野で目標値を大きく下回っている。</p> <p>学既習内容が定着しておらず、家庭学習ができない児童がいる。</p> <p>学文章の問題を図に表したり、式に表したりすることができない児童が多い。</p>	<p>・数の位の考え方について、表を用いて指導し、表がなくても考えられるように指導する必要がある。</p> <p>・個別の課題を理解して指導する必要がある。</p> <p>・簡単な文章題を図や表にし、文章題に慣れるように指導する必要がある。</p>	<p>・児童が想像しにくい事象について、図や式で表す習慣をつけさせる。初めは教師が見本を見せ、練習問題に取り組むという形で力を付けさせる。</p> <p>・既習内容が定着していない児童には、個別のプリントを用意し、取り組ませるようにする。</p> <p>・算数科の導入の時間に既習内容の文章題に取り組ませることで、徐々に力を付けさせる。</p>	<p>・1つの問題に対しての解き方を、図で表したり、式で表したりすることで、様々な解法を身に付けることができた。今後も継続して指導していく。</p> <p>・既習内容が定着していない児童には、個別のプリントを用意して取り組ませることで、児童一人一人の定着度に合わせて、学習に取り組むことができるようになった。</p> <p>・授業の最初に既習内容のプリントを実施した。文章題を読み取る力の高まりや計算力の向上が見えたため、今後も継続して指導していく。</p>	<p>・1つの問題に対しての解き方をグループで考えることで、いろいろな表現方法が身に付いた。図で表したり、式で表したりすることができるようになった。今後も継続して指導していく。</p> <p>・既習内容が定着していない児童には、個別のプリントを用意して取り組ませることで、基礎的な学力を向上させることができた。</p> <p>・習熟度別のすべてのクラスで、授業の最初に既習内容のプリントを実施した。計算力の向上が見えたため、今後も継続していく。</p> <p>・新宿区学力定着度調査では、知識・技能の観点、思考・判断・表現の観点での差が大きい。パターン判定（4層分析）を行うと、個別指導の必要がある判定が多くある。単元別では、主に計算分野の点数が低く、計算力を向上させるために毎時間計算プリントに取り組む。</p>
6	国語	<p>調新宿区学力定着度調査の結果、平均正答率は全国・新宿区と比較しても大きな差はないが、「書くこと」分野の正答率は低い傾向が見られた。</p> <p>学文章を書くことに課題が見受けられる。</p> <p>学文章を読む速度が遅く、内容理解が乏しい児童が見受けられる。</p>	<p>・語彙が少なかったり、漢字の長期定着が難しかったりする実態がある。</p> <p>・感じたことを文章で表すことが難しく。「楽しかった」や「頑張った」など、単調な文章になってしまう。</p> <p>・音読で止まってしまったり、勝手読みをしてしまったりして、内容を正しく捉えられない。</p> <p>・「書くこと」について、テーマに沿った文章を書きあげることができるようにする必要がある。</p>	<p>・定期的な漢字の宿題や音読学習を通して、書ける字を増やしていく。またICT機器を活用して意欲的に取り組めるように工夫する。</p> <p>・音読の宿題や読み合いを取り入れ、読むことを習慣化させる。</p> <p>・文章のテンプレートを紹介し、まず定型文の文章を書けるようにする。</p>	<p>・漢字の宿題を通して、漢字が定着した児童がいた一方、まとめテスト等期間が空いた場合に忘れてしまっている児童が多くいた。単元毎のミニテストと並行して、朝学習などで振り返りテストも実施していく。</p> <p>・日記や短文を書く宿題を出すことで、簡単な文章の書き方を身に付ける取り組みを行っている。継続的に実施していく。</p> <p>・国語の読む単元を中心に丸読みや音読を行うことで、読むことが苦手な児童も取り組むことができるようになってきた。継続して実施する。</p>	<p>・説明文や意見文を書く活動では、文章の構成を順序ごとにまとめさせた。それを活用し、どのような構成にすると自分の考えをより効果的に読み手に伝えることができるのかを考えさせたことで、自分の考えを文章に分かりやすく表現することができる児童が増えた。また、語彙が少ない児童のために表現や単語を一覧にして分かるようにしたり、辞書で調べさせる活動を行ったりしたことにより、表現に使う文量が増えた。</p> <p>・日記で書く文章表現を添削することで、文章の正しい書き方や表現方法を意識して書くことができる児童が増えた。</p> <p>・国語の学習では丸読みを通して読む感覚を身に付けさせるとともに、単元によっては音読会を行い、音読表現の面白さに気付く児童がいた。それにより、国語学習以外でも読む速度や文量が増えた。</p> <p>・新宿区学力定着度調査のパターン判定（4層分析）を行うと、書くことや文章読解で、児童間の差が大きい。漢字の書き取りが苦手な児童が多く、ミニテストや漢字の再テストなどを細かく実施して定着させていく。</p>

	算数	<p>学 文章問題の立式や計算が課題である。</p> <p>調 新宿区学力定着度調査の平均正答率は全国スコアを上回っているが、新宿区の平均正答率と比較すると下回る結果となった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 『小数のかけ算・わり算』、『分数のたし算・ひき算』の技能の定着が不十分な児童が見受けられる。 学力が高い児童がいる反面、単純な計算や作図に苦戦する児童がおり、学力の二極化が見られるため、全体的な底上げが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算ミニテストなどを取り入れ、計算力の底上げに取り組む。 文章題の理解が苦手な児童が多いため、問題のポイントにアンダーラインを引くなどして、理解しやすい方法を提案する。また、ドリルやICTを活用して、計算力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 少数の他にも分数のかけ算、割り算も計算の仕方を理解できていない児童が見受けられた。朝学習などで、定期的に振り返りテストを行って課題克服に努めたい。 個別の声掛けなどで、文章のポイントに気付くことができる児童もいるため、適宜の声掛けを継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別に分かれて児童の実態に応じて指導したり、ICT機器やデジタルドリルを活用したりしたことで、基礎的な計算方法の理解や技術の定着を図ることができた。また、計算問題などを反復で取り組むことで、計算の正確性を意識する児童が増えた。 テストでは、文章題を最後まで2度読み切ってから、問題に取り組むよう促すことによって、記述間違いや単位記入忘れなどが改善された児童がいた。 新宿区学力定着度調査のパターン判定(4層分析)を行うと、分数や百分率の計算で、児童間の差が大きい。円、球の問題で、全国平均と比較し12ポイントの開きがあった。記述問題での点数が低く、読解力を上げていく必要がある。
音楽	<p>学 音楽科の活動を素直に楽しめる児童が多い一方、2年間以上制限がかかっている中での活動を進めているため、基本的技能面において、自信をもてない児童も多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> リコーダーの運指がなかなか定着しない。 共用楽器を演奏する際、楽器の取り扱い方に注意が必要な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> リズム打ちや手先を動かす常時活動を続ける。感染状況が落ち着いている時期を見計らって、リコーダーや歌唱表現に重きをおいて指導をする。一人一人の音を聴く場を設け、達成感を味わえる時間をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に実技の活動の定着がコロナの影響により遅れているため、たくさん歌ったり、演奏したりする時間をとっている。少人数での演奏の時間を各クラスもつようにし、個の音色を子ども同士でもお互いに確認し合える時間をつくりお互いに高め合えるよう心掛けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 2月の学校公開に合わせ、各学年の演奏を発表する場を設けた。「発表」という最終ゴールがあったことで、児童は目標に向かって練習に取り組む、達成感を感じる事ができた。友達と一緒に練習し合い、お互いに高め合う場面も見られ、音楽の知識技能だけではなくそれぞれ学びを深められたと思う。 	
図工	<p>学 図工の学習に意欲的に取り組む児童が多い。しかしながら、基本的な用具に関する知識や技能について練習が必要な児童も見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 絵の具の基本的な使い方がいるため、再度確認をする必要がある。 のこぎりや彫刻刀の扱い方に関する知識や技能を身に付けさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年の実態に応じて系統的に知識や技能を身に付けさせることができるように学習を計画する。 掲示物などを用いて用具の使用方法を常に確認できるように工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年の実態に応じた指導を継続しているが、基礎的な技能について課題のある児童がいるため、計画的な指導が必要。 刃物の使い方など、掲示物などを引き続き作成して、安全な学習環境を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートや板書、個別的な指導の工夫を行うことによって、基本的な技能に課題のある児童の指導を行ってきた。引き続き指導が必要。 用具については、ラベリングや整理を行うことによって用具の安全管理を行うと共に、学習環境の向上を図る。 	
特支						

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。